

## 2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 4月 7日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	松本理一郎
研究課題	比喩的意味の拡張				
研究キーワード	メタファー、メトニミー、 家族的類似性	当年度計画に対する 達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた		
関連する SDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

## 1. 研究成果の概要

印欧語族の語根で、「同一、類似」を表すもののうち *sem-*, *\*likam-*, *gen-* の意味変化を記述し、分析した。ここで明らかになったのは、認知意味論のカテゴリー観を裏付ける意味変化が見られる点とその根幹を支えるヴィトゲンシュタインの家族的類似性を示唆する例が見いだされる点である。

さらに、語根 *oino-* とラテン語 *aequus* に連なる語の意味変化を記述・分析した。両語根が結び付いたラテン語 *unigena* が家族的類似性を髣髴させる意味変化を呈している。これらの意味変化は印欧語族に限られず直接関係のない言語にも見受けられる点は特筆すべき点である。

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

## 【論文（査読あり）】

なし

## 【著書・論文（査読なし）】

千葉商大紀要 第60巻 第2号、第3号

## 【学会発表等】

なし

## 3. 主な経費

なし

## 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし